

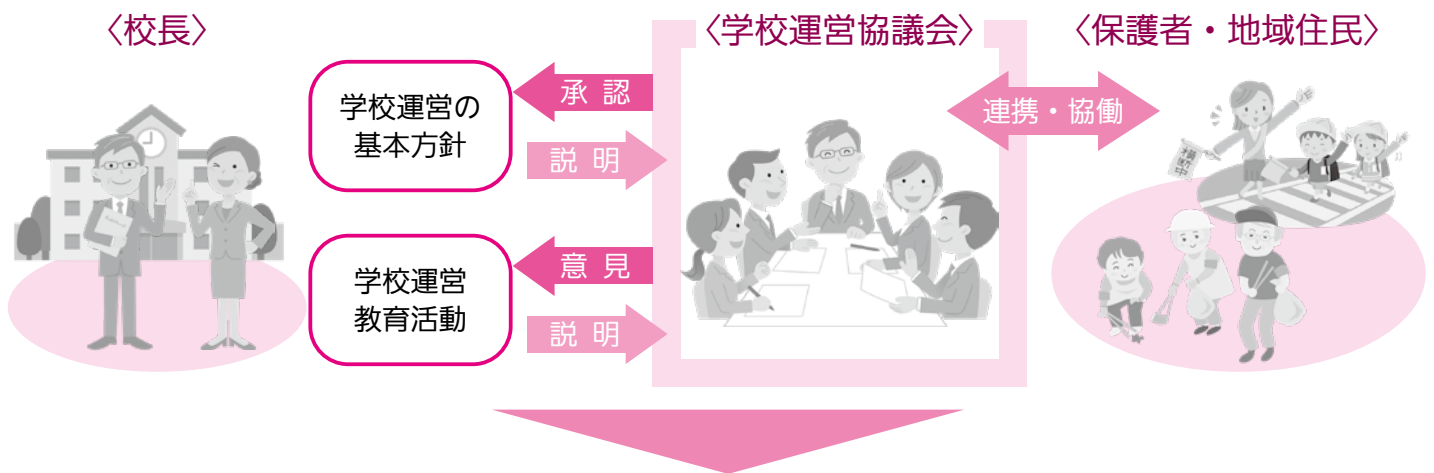
地域とともにある『次世代の学校』

コミュニティ・スクール

圏文化学習活動推進課（☎017-718-1384）

コミュニティ・スクールとは、学校と地域・保護者等が協力し合い学校運営に関わることを通じて、子どもたちの豊かな学びと育ちの環境づくりを行う仕組みです。「学校運営協議会」という組織を設置し、『地域とともにある次世代の学校づくり』を目指します。

コミュニティ・スクールの仕組み



青森市のコミュニティ・スクールの特色

- ①小・中学校で一つのコミュニティ・スクールを設置
「9年間で目指す子ども像」を学校と地域が共有し、中学校区の特色を活かした教育活動を推進します。
- ②学校関係団体を一本化
学校評議員、学校施設開放運営委員会等の組織を整理し、「学校運営協議会」に一本化することで、学校業務の効率化と教職員の負担軽減を図ります。

コミュニティ・スクール導入でこう変わる！

- ◎学校課題の解決（学力向上、いじめ、不登校、教職員の多忙化解消等）
保護者・地域住民が積極的に子どもたちの教育に携わることによって、“顔が見える”関係となり、地域の理解と協力を得た学校運営が実現します。
- ◎地域課題の解決（地域貢献、防災、防犯、キャリア教育等）
大規模災害時の緊急対応等、地域課題の解決に向けて、学校と地域が一体となって取り組むことができます。

本市のコミュニティ・スクールは、小・中連携教育を一層推進していくため、地域内の小・中学校によって構成しているという特色を持っています。

各校では、自校の課題について協議し、地域と一体となった防災教育、運動・文化活動、児童生徒の見守り、キャリア教育等について、子どもたちへの愛情が感じられる取組がなされています。

今後小・中学校を俯瞰した活発な取組が継続されていくものと期待しています。



工藤 裕司 委員

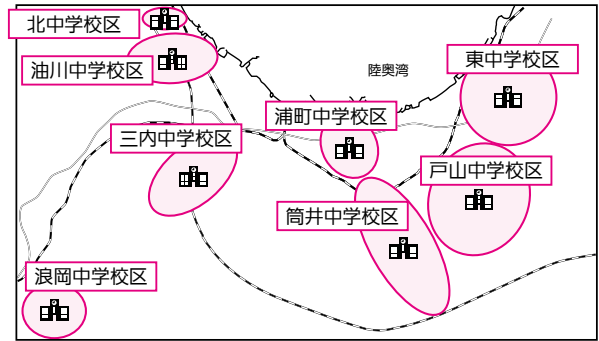
コミュニティ・スクールの立ち上げに携わった
元教育部長・現油川中学校区
学校運営協議会



コミュニティ・スクールはこんな活動をしています

現在、本市では、8中学校区（28校）でコミュニティ・スクールを導入しています。

この中から、東中学校区、浦町中学校区の地域特性を活かしたユニークな活動をご紹介します。



東中学校区（東中学校、東陽小学校、原別小学校、野内小学校）

～避難所運営を体験！～

地域との関わりを学び、率先して避難所運営に関われるよう、東中学校と防災・福祉関係団体や、地域住民が協力し、感染症拡大防止に対応した避難所運営を体験しました。

また、感染防止対策を示した絵文字（ピクトグラム）の作成が高く評価され、「ぼうさい甲子園」の特別賞を受賞しました。



浦町中学校区（浦町中学校、堤小学校、荻町小学校、橋本小学校、浦町小学校）

～地域スポーツクラブの創設～

部員減少によって学校単位の部活動の実施が難しいなか、中学校区を範囲としたスポーツクラブを創設し、地域のかたが指導者や補助者となって、子どもたちのスポーツ活動の支援を行っています。



三内中学校には吹奏楽部がありませんでしたが、学校運営協議会の意見で、三内西小学校に音楽の専門性に長けた先生が配置され、小中一貫教育のもと、小学生と共に部活



青森市立三内中学校
渡邊 諭 校長

「コミュニティ・スクールが始まり3年目になります。浪岡中学校区には、中学校・小学校合わせて7校の学校があります。地域の子ども



浪岡中学校区
学校運営協議会
常田 清彦 会長



動を継続しております。コロナ禍においてもICT端末を活用し、遠隔指導を受けたり、小学生と交流したりすることで、演奏にも力が入り、吹奏楽に取り組めることに喜びを感じているようです。

「コミュニティ・スクールでは、これらの事業をはじめ、コロナ禍の状況で、学校・家庭・地域がどう連携していけばいいのか協議しています。これからも地域の担い手となる子どもへの育成に協力していきます。」

「コミュニティ・スクールは、これからの事業をはじめ、コロナ禍の状況で、学校・家庭・地域がどう連携していけばいいのか協議しています。これから地域の子どもたちの育成に協力していきます。」

「コミュニティ・スクールは、これからの事業をはじめ、コロナ禍の状況で、学校・家庭・地域がどう連携していけばいいのか協議しています。これから地域の子どもたちの育成に協力していきます。」